



女性の生き方について考える場“*She is*”の竹中万季・野村由芽が、 個人を尊重し、社会構造の問題に目を向ける新メディア「*me and you*」を立ち上げ！

本日より、クラウドファンディング開始

- ・最果夕ヒ、枝優花、龍崎翔子、穂村弘、武田砂鉄らが応援
- ・本の先行お届け、編集会議参加権、取材同行権、動画企画出演などのリターンをご用意

国内最大級のクラウドファンディング・プラットフォームを運営する株式会社MotionGallery（本社：東京都港区／代表取締役：大高健志）は、ライフ&カルチャーコミュニティ“*She is*”として女性のための場を作り、支持されてきた竹中万季・野村由芽が独立後初めて立ち上げるメディア・コミュニティ“*me and you*”のためのクラウドファンディングを本日11月5日（金）より開始いたします（2022年2月10日23:59まで）。

▶クラウドファンディングページ：<https://motion-gallery.net/projects/meandyou>

小さな違和感も幸福もなかったことにしない。*me and you*では、*She is*で向き合ってきた「女性」だけでなく男性も、シスジェンダー・ヘテロセクシュアルの方だけではなくあらゆるジェンダーやセクシュアリティの方とも、そして、それぞれに異なるさまざまな状況のなかで生きる方とも、個人を尊重し、社会構造の問題に目を向け、お互いの生きた心地について考えるコミュニティメディアをつくります。現時点で存在している社会課題に少しずつフォーカスしながら、さまざまな声や対話を集め、記録する「*little magazine*」というマガジンと、安心して話しはじめることができ、信頼できる人が見つかるかもしれない「*club*」というコミュニティのふたつの軸で、一人ひとりの権利や尊厳をどのように守っていけるのかを互いに考えていきます。



me and youメインビジュアル：小林エリカ



me and you（左から野村由芽・竹中万季）

“*me and you*”とは

個人と個人の対話を出発点に、遠くの誰かにまで想像や語りを広げていくための活動を行う拠点です。株式会社CINRAで「自分らしく生きる女性を祝福するライフ&カルチャーコミュニティ“*She is*”（2017年9月～2021年3月31日）を立ち上げた竹中万季・野村由芽は、200名をこえるGirlfriends※とともに女性たちがぶつかる悩みや壁に、答えではなく問いを投げかける特集を多数発信し、2021年4月に独立。個人の小さな声や温度を大切にしながら、社会に存在する課題に向き合うことの両方を重視し、Podcast／ラジオやニュースレターを配信するほか、企業や団体によるプロジェクトのプロデュースや編集業務を行っています。

※職業や年齢を問わず、作家やイラストレーター、ミュージシャンなど表現に携わる方から、起業家やアクティビスト、ファッション業界で働く女性、公募をきっかけに出会った台湾の大学院で研究を続ける学生、オーストラリアで学ぶ高校生などが関わった。

なぜ、新メディア・コミュニティをつくるのか？

あらゆるジェンダーのひと、個人的な違和感や不条理について語り合う必要性

She isの約3年半の活動を通して、me and youでは、個人の声を肯定し、尊重しあうには、自分自身だけではなく、他者との関わりや、歴史が培ってきた社会の仕組み・構造にも目を向ける必要があると強く実感しました。女性をとりまく問題について考えるうえでも、性自認が女性の方のみならず、あらゆるジェンダーのひとと語り合う重要性を感じています。そして、これまでShe isを通して主に対話をおこなってきたシスジェンダー、ヘテロセクシュアルの女性だけでなく、この社会によって生きづらさを抱えているあらゆるジェンダーやセクシュアリティの一人ひとりと手を取り合いたいと強く思うようになりました。She isで学んだことや出会ってきたもの・ことを踏まえながら、異なる「個人」同士が、その人自身であるという理由で疎外されることなく、お互いを祝福しあうにはどうしたらいいのか？ それを阻む「社会」の構造や、社会をつくる一人ひとりにはどのような課題やできることがあるのか？その両方に目を向ける場所を一緒につくっていくのが、このプロジェクトです。

メディア・コミュニティ”me and you”活動内容

1. 場所をつくるためにさまざまなフィールドで知見を持つ方に話をうかがう「i meet you project」

me and youが大切にしていきたい6つの指針や、考えていきたい社会問題について編集部が学びを深め、読者の方ともその過程を共有していく「i meet you project」。メディア・コミュニティの準備期間中から取材を進め、ローンチ後も継続的にさまざまな方との対話を通してメディア・コミュニティの場づくりに反映させていきます。

＜お話をうかがう予定の方々＞

伊藤絵美さん、イ・ランさん、川上未映子さん、小林エリカさん、長田杏奈さん、武田砂鉄さん、竹田ダニエルさん、ドミニク・チェンさん、ノーマルスクリーン秋田祥さん、穂村弘さん、台湾・フィンランドのメディアやコミュニティなど。

2. 学びはじめるきっかけとなる「わたしたちの辞書」・支援団体やプロジェクトを紹介する「リンク集」

フェミニズムやジェンダー、政治など、社会問題に関心を持ったときに、学びはじめるきっかけとなる「わたしたちのための辞書」と、me and youが共鳴する支援団体やプロジェクトを一覧にして紹介する「リンク集」をつくるべく、有識者の方々とともに準備中です。検索結果で、なかなか正しく信頼できる情報に辿り着くのが難しい現状を踏まえ、一人ひとりが適切な選択肢に出会い、自分や大切な誰かを支えるきっかけを促したいと考えています。

3. 対話を重んじるインタビューや、個人的な記録としての日記、つくる場としての創作や論考

「対話を重んじるインタビュー」「個人的な記録としての日記」「一人ひとり異なる声を集めること」「本・映画・音楽・アートといった、現実問いをなげかけ、現状に対してオルタナティブな可能性をつくり出す作品」などの切り口で、個人的なものやインディペンデントな態度から、社会の枠組みを捉え直していく企画を準備中です。小説、詩、俳句、短歌、音楽、写真、漫画、論考、エッセイといった「作品」を通して、ひとつの答えではなくさまざまな解釈と出会えるような場をつくと同時に、創作する人のための場でもあるよう、取り組んでいきます。

4. 個人的な悩みから趣味、社会問題まで安心した場所で話せるコミュニティ

本や映画の話をしたりDIYを楽しんだりするクラブ活動、日常の違和感や社会問題への気づきを語りはじめるイベントなど、生活も社会も地続きに一人ひとりが思考をめぐらせ、共有できるコミュニティを計画中です。

SNSではなかなか言い出しづらいことも、大切にしている考えを共有できるかもしれない人同士だから話せるということがあるかもしれません。無料でも参加できますが、安心して話しはじめることができる場所の運営のため、登録制にする予定です。

5. 継続的に存在できる場所づくり

健やかに、継続的に場所を存続させていくために、スポンサーや広告だけに依存せず、共鳴を寄せてくださる読者のみなさまからのサポートもとりいれたかたちでの運営方法を検討中です。さまざまな状況の方に読んでいただける場所であるよう、無料でも楽しめる仕組みをつくりまします。メディア・コミュニティとしての売り上げの余剰分は寄付にあてるなど、社会と関わりながら、場所を続けていくことをめざします。

応援コメント

最果夕ヒ（歌人）：人と人との関係性には、限界があると思っています。理想は見えてもどうしてもそこまで行くことができないと思うことは多いし、何度もその繰り返しです。けれど、それでも諦めないということが、燃えるような決意ではなく、もっと自然な、日常の流れとしてできるなら、そんな場所があるならそれは何より強くしなやかなことだと思います。

枝優花（映画監督・写真家）：これまでお二人が大切に眼差し、志してきたものがこうして改めて新しい在り方で形になること、とても楽しみにしています。確かに存在しているのに居場所を感じられず、孤独という言葉で簡単に片付けてしまうにはあまりに寂しい、豊かでありたいと願う、誰かの光になると私は信じています。



龍崎翔子（ホテルプロデューサー）：そこは、確かに私たちの居場所だった。生活と人生の間で、私たちの生きる時間を豊かにしてくれた数々の問いに提案、そして愛。そんな暖かく力強い、意思ある人々を優しく紐帯するコミュニティが再び胎動を始める瞬間が来ることをこの上なく嬉しく思っています。



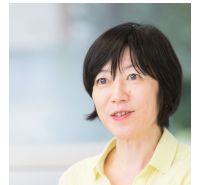
穂村弘（歌人）：「途中、過程、迷い、複雑さ、曖昧さの肯定」という言葉に惹かれました。そういう場所で生きたいと思います。



武田砂鉄（ライター）：me and youのお2人には、1年に1回、いや、3年に2回くらいしか会わないのですが、いつも、その時に考えていることをじっくりと話してくれて、だからこちらも、最近、こう思っていて、という話をします。そうやってじっくりと話をする機会というのか、経験というのか、空間というのが、この社会から減ってきている気がして、その、減ってきた感じを、どうやらこの2人が増やそうと試みていると聞いて、楽しみすぎるのです。



伊藤絵美（公認心理師、臨床心理士、精神保健福祉士、洗足ストレスコーピング・サポートオフィス所長）：私はセラピスト（心理カウンセラー）という職業柄、「ケア」に非常に興味があります。ケアの基本はセルフケアです。まずは自分で自分をケアし、慈しむ。自分を大切にできる人は、パートナーを大切に、周囲の人たちを大切に、この社会に生きるすべての人たちを大切にすることにつながると考えています。me and youは、まさに個人がセルフケアすると共に、互いにケアし合うような関りを創出するような、そしてそういう関りを支える構造にも目を向けた、そんな新しいメディアだと思います。新たなメディアの船出を、心から応援いたします！



me and you 野村由芽、竹中万季よりメッセージ

世界中のわたしとあなたは違うから、すべてをわかりあうことはもちろんできません。けれど、She isでの活動を通じて、個人的な経験を持ち寄り、語りはじめ、お互いをわかりあおうとする歩みにこそ、「ここにいられる」という感覚が生まれることを知りました。そして、女性というジェンダーのみならず、さまざまなジェンダーやセクシュアリティの人とも対話を重ねていくことが、個も社会もゆるやかに変えていくのだという気づきにつながりました。「一人ひとりがそれぞれの声を持ち存在すること」と「個の問題は、社会とつながっていること」。その二軸を大切にするために、新しいメディア・コミュニティでは、数の大きさや、わかりやすさによってスピーディーに判断することよりも、小さな声や、語られていなかったこと、ものごとの複雑さを重視しながら、変わりゆくものごとを考え、語り続ける場所をつくりたい。「対話を重んじるインタビュー」「個人的な記録としての日記」「安心して話せる場所」「支え合い、学び始めるための辞書、リンク集」「本・映画・音楽といった、現実問いをなげかけ、オルタナティブな可能性をつくりだす作品たち」……そういったものの力をわたしたちは信じながら。ここに集ってくださる方々や、わたしたち自身がつくりたい場所の先に変化が訪れるには、もしかしたら時間が必要かもしれません。目に見える効果のようなものがすぐに得られるわけではないかもしれませんが。それでも。異なるわたしとあなたの、昨日の違和感がすこしやわらぎ、誰かから生きることを削られず、削らず、自分に心地よい温度と速度で、いまより息がしやすく、生き延びられるな、と思える希望や祝福みたいなものを考え続けるための場所を、一緒につくりませんか。共鳴してくださる方とともにこの場所は、ありたいと思っています。

クラウドファンディング概要

プロジェクト名：わたしもあなたも生きている心地を。対話から始める「me and you」の新メディア・コミュニティ

期間：2022年2月10日23:59まで

スケジュール：

2022年1月下旬：コミュニティメディアオープン、「i meet you project」記事掲載開始

2022年3月～4月：リターン特典のイベント開催

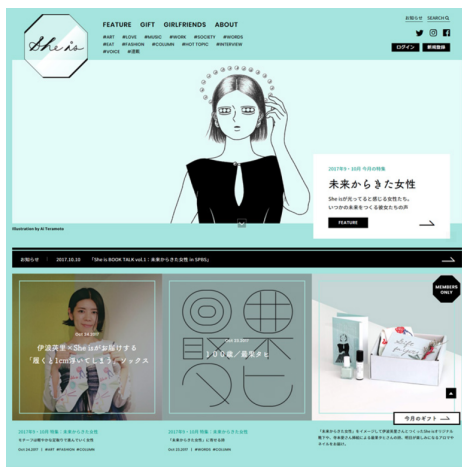
2022年4月下旬：「i meet you project」冊子完成、リターン発送

目標金額：3,500,000円

リターン：3,000円～1,000,000円

me and youを応援コース（3,000円）、あなたのもとに本をお届けコース（6,000円）、あなたのもとに本とステッカーをお届けコース（8,000円）（10,000円）、「わたしとあなたで対話」コース（イベント参加1～5回つき）（15,000～30,000円）、「未知へと歩き出す」コース（me and youの取材に同行つき）（30,000円）「アイスクリームが溶けても」コース（50,000円）、「あなたのやりたいことを祝福します」コース（100,000円）、「【企業向け】「揺れ動きながらも考え続ける」コース（プレスト or ワークショップ1回～5つき）（300,000～1,000,000円）※詳細はクラウドファンディングページをご確認ください。

公式ページ：<https://motion-gallery.net/projects/meandyou>



左：自分らしく生きる女性を祝福するライフ&カルチャーコミュニティ「She is」

右：「性にまつわることをいつもの自分の温度で話しはじめてみる」Podcast&J-WAVEラジオ番組『わたしたちのスリープオーバー』。



左：ニュースレター「me and youからのmessage in a bottle」

右：動画企画「アイスクリームが溶けても」ゲスト：小谷美由さん